

へびつかひ座カ星は變光星

山本 一 清

肉眼にも見える變光星は「天界」第70號にある神田理學士の表の中に一應盡されてゐるわけである。従つてバイエル式のギリシヤ文字や、ローマ字で呼ばれる星の中の變光星もまづあの表の中にあるものゝみこ見ておけば好い。——たゞ最近にベルリン天文臺の「小出版物」第一號の中に載せられた變光星一覽表 (R. Prager 氏作) を見るに、神田氏の表のはくてう座 d 星は無く、みづへび (Hydrus) 座 η 星と、へびつかひ座 × 星とが含まれてゐる。

はくてう座 d 星は神田氏が「天界」第70號、第582頁に記してある通り、佛國のダンジョン氏等が變光星たることを觀たものであるが、ドイツの A. G. 協會の人々は今に至るも之れを變光星として承認しない。——其の確たる理由はわからないが。

みづへび座 η 星は、位置が、

$$\begin{array}{lll} \text{赤經} = 1^{\text{h}} 49^{\text{m}} 25^{\text{s}} & \text{赤緯} = -68^{\circ} 33.76 & (1855\text{年の分點で}) \\ = 1 \ 50 \ 3 & = -68 \ 25.9 & (1900\text{年} \quad) \end{array}$$

であつて、1873年にグルド (Gould) がコルドバ天文臺で之れを變光星と認め、光度が 6.6 から 7.5 までの間に變る長週期の變光星と考へ、従つてコルドバ調査には此の星を $[-68^{\circ}1878 \text{ (var)}]$ と記してゐる。其の後 1896年一月と二月の頃、南阿のインネス氏が此の星を觀測して、6.3 と 7.0 との間に光度を變へるを見た。又カプタインは同じ頃之れをケープ天文臺の寫眞で 6.5 乃至 6.7 等級と見、尙ほ 1884年11月24日には之れを 9.2 と見たこともあつた。今日は未だ此の星の變光性質が好く知れてゐないが、或は一種の不規則星では無いか？ しかし、此の星のスペクトルは A₀ である。(但し此の星は日本からは全く見えない南天の星である。)

へびつかひ座 × 星は、近頃米國ハーブード學院天文臺に於いてジョルダン (M. F. Jordan) 氏が 1899—1923 年の間の 200 枚の天體寫眞の研究によつて、4.1 乃至 5.0 の間に不規則變化をする星であることを認め、ハーブー

ド・ブレテン第 831 號に發表した星である。尤もミス・カノンはドレーパー目録の中に此の星の分光型がカシオペア座 α 星に似たるを述べ、「多分變光星ならん」と言つて居る。此の星はボン調査の中の [+9°3298] であつて、位置は

赤經 = 16h 50m 48s 赤緯 = +9° 36.73 (1855年の分點で)
 = 16 52 57 = +9 31.8 (1900年)

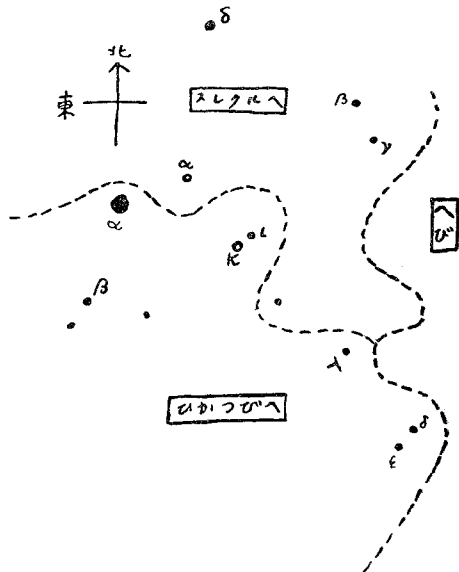
又、スペクトルは K₀ である。今まで光度は

ボン調査 [+9°3298] での	3.2	
ハーワード光度表 (H. P. 2838)	3.4	
ハーワード改正表 (H. R. 6299)	3.42	分光は K
ポツダム光度調査 (Ph. D. 8926)	3.36	色は WG
H ドレーパー目録 (153210 番星)	眼視 3.42	寫眞 4.42

分光型 K₀ (α Cass. に似たり、0.^m4 程度の變光星か?)

こなつてゐるが、不思議に此の大光輝の星が逸せられてゐるたものである。此の星はへびつかひ座の西北端に近く、 ϵ 星と極めて接近してゐる星であつて、光度觀測のためには、

ヘルクレス座 β 星	2.81 K
へびつかひ座 β 星	2.94 K
へびつかひ座 δ 星	3.03 Ma
ヘルクレス座 δ 星	3.16 A
へびつかひ座 ϵ 星	3.34 K
ヘルクレス座 γ 星	3.79 F
へびつかひ座 λ 星	3.85 A
へびつかひ座 ι 星	4.29 A



を比較星として、肉眼或は双眼鏡による觀測するのが好い。但し、ヘルクレス座 α 星は有名な不規則星であるから、比較星に取らないこと。